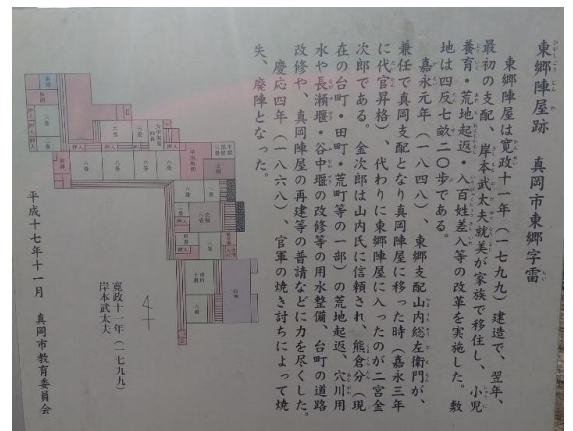


東郷陣屋は、江戸時代の寛政11年（1799年）、代官岸本武太夫就実の時に建てられました。岸本代官は美作国（現在の岡山県）の出身で、多くの役職を経験した後、寛政5年（1793年）に藤岡陣屋（栃木市）に赴任し、寛政12年（1800年）に正式に東郷陣屋に移り、農村の復興につとめました。岸本代官がいた当時は、芳賀郡60か村を支配していました。岸本代官は、真岡陣屋にいた竹垣三右衛門直温とともに、真岡地方の村むらを復興させたため名代官とたたえられています。

岸本代官の後は、多くの代官が入れ替わり、東郷陣屋に赴任しています。江戸時代が終わるときには、二宮尊徳（金次郎）が幕府の役人として東郷陣屋に赴任して、真岡地方の農村の復興を行いました。二宮尊徳が日光地方の復興のために今市に移った後は、門人の吉良八郎が残り真岡地方の農村のために働いていましたが、明治時代になってくると陣屋としての役割を終えることとなります。



東郷陣屋の跡地（右奥は二宮尊徳が改修工事を行った大前堰から流れる穴川用水）



東郷陣屋の案内板



西郷にある岸本神社



東大島の西念寺にある岸本代官の碑